

柳瀬

研磨材のノウハウ搭載、3カ月納品も

柳瀬が昨年10月から提案を始めたバリ取りロボット装置「DEBURIX（デバリック）」（写真）の引

き合いが増えている。加工対象物は金属、樹脂、セラミックなどと幅広く、「研磨

材メーカーとして培ったノ

ウハウがあるので、あらゆる素材に対応できる」と言

う。生産財関連の展示会など

でアピールし、注目を集めてきた。同社がもつ研磨材



小型のDEBURIX

バリ取りロボット

の選定や扱い方のノウハウを生かし、ロボットアームを含めた装置として効率的な加工を提案する。この装置のもう1つの特長は短期で対応できることと、省スペース設計なこと。この種のロボットはユーザーにより使い方が変わるため納期に半年から1年かかることが多いが、DEBURIXは標準で3カ月。装置寸法は幅1050×奥行1050×高さ2000と中小の工場に設置しやすい。価格は仕様によるが

1千万円以上という。

装置は研削砥石や研磨材を販売する本間商会（愛知県名古屋市）と自動装置やシリコン製品などを開発するワイテック（同清須市）が共同で開発。経済産業省の「異分野連携新事業分野開拓計画（新連携支援事業）」に昨春採択された。来年のJIMTOFでは柳瀬が本間商会・ワイテックのブースで改良品を出品する予定。幅1500×奥行1500のひと回り大きなサイズの商品化も検討している。